

対タジキスタン共和国事業展開計画

2024年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続的で安定した経済・社会発展が可能が国づくり支援
---------------	---------------------------

重点分野1 (中目標)	経済・産業開発基盤の整備												
開発課題1-1 (小目標) 運輸物流網の整備	【現状と課題】 タジキスタンは海への出口を持たない内陸国であり、世界貿易へのアクセスや物流を円滑化させるためには運輸セクターの開発が重要であり、タジキスタン政府はそれに向けた開発に取り組んでいる。今後、国際道路（交通回廊）、国内の地方都市を結ぶ空路等のインフラや税関や流通のためのネットワークの整備を一層進めていく必要がある。					【開発課題への対応方針】 道路・橋梁維持管理や航空安全確保のための人材育成、通過国としての物流能力強化や地域間の連結性強化に資するインフラ整備を通じ、タジキスタン政府による運輸インフラの開発を後押しする。							
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度				
	運輸物流網整備プログラム	橋梁維持管理能力プロジェクト		技プロ	■						4.50	9	
		性能準拠型航法導入に係る能力開発向上プロジェクト		技プロ	■							9	
		道路アセットマネジメント技術の中核人材育成		国別研修		■						9	
		課題別研修（道路維持管理、RAMS、都市交通等）		課題別研修他	■							9	
		カスピ海ルート・スピタメン国境税関大型貨物用検査機材整備計画		協準		■						9	
		中央アジア・コーカサス地域カスピ海ルート物流機能強化に係る情報収集確認調査		基礎情報収集	■							9	
カスピ海ルートにおける通関所要時間調査（TRS）及び税関のリスク管理能力向上			第三国研修		■						9		
開発課題1-2 (小目標) エネルギー供給の 安定化	【現状と課題】 タジキスタンは豊富な水資源を有し電力は水力発電により賅われているが、地方部における冬期の通電は4～6時間/日である等、水力発電のポテンシャルを十分に活用できていない。また、発電施設や変電施設の老朽化による発電効率の低下、電力ロスも高いため、発電能力の増強やエネルギー効率の向上を図る必要がある。					【開発課題への対応方針】 首都ドゥシャンベを中心とした都市部において、変電所新設・リハビリ、省エネの推進等を含むエネルギー効率向上を支援する。地方部においては、治安状況に留意しつつ、可能な協力を検討する。また、同分野の案件形成に当たっては、中央アジア・南アジア広域のエネルギー政策及び近隣国との外交関係に留意する。							
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度				
	エネルギー効率化プログラム	地中熱利用による脱炭素型熱エネルギー供給システムの構築（SATREPS）		科学技術	■						3.93	7	
		電力・エネルギー分野に係る課題別研修		課題別研修他	■							7	
		資源の絆		国別研修		■						7	
中央アジア（キルギス・タジキスタン）電力セクターに係る情報収集・確認調査			基礎情報収集	■	■						7		
ドゥシャンベ変電所整備計画（フェーズ2）			協準		■						7		

開発課題 1-3 (小目標) 雇用促進のための ビジネス環境整備	【現状と課題】 タジキスタンの民間企業の95%を占める中小企業の金融サービスへのアクセスは限定的であるほか、旧ソ連時代から続く企業側の旧態依然のビジネス・マインドは、ビジネスの成長の障害となっている。また、農業分野では、人口の約60%以上が農業に従事する一方、2022年の農業のGDP寄与は度24.6%に留まっているほか、2021年には穀物の60%を輸入に頼り、総人口の21%の食糧安全保障が確保されていない。この背景には、農作物の高付加価値化が不十分であること、農家への営農指導に必要な普及システムが存在していないこと等が挙げられる。		【開発課題への対応方針】 中小企業振興では、実践的なビジネス知識・スキル向上等の人材育成を図りつつ、投資環境の改善、一村一品運動を通じた地場産業振興や農作物への高付加価値化による商品化を行う。また、農業に関しては、生産性の向上に加え、市場志向型農業への転換を支援し、農家による市場へのアクセス向上や「稼げる農業」への転換を図る。併せて、農民の組織化等効果的な農業普及システムの開発も支援していく。また、中小企業振興、農業の両支援において、ジェンダー改善のための十分な配慮を行う。								支援額 (億円)	SDGs	備考			
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間												
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度							
中小企業振興／農業経営 支援プログラム	スモール・ビジネス・インキュベーション・プロジェクト	技プロ		■	■	■	■	■	■	3.53	8					
	一品一村運動を通じた中央アジアにおける地場産業振興プロジェクト	技プロ	■	■	■	■	■	■	■		8					
	第二次バッタ管理対策改善計画	無償	■	■	■	■	■	■	■	7.98	1、2	FAO連携 6か国対象				
	SHEPアプローチを通じた農業普及システム改善プロジェクト	技プロ	■	■	■	■	■	■	■	4.41	1、2					
	タジキスタン小型農業機械の整備にかかる情報収集・確認調査	基礎情報収集	■	■	■	■	■	■	■		1、2					
	食料安全保障のための農学ネットワーク(AGRI-NET)	国別研修	■	■	■	■	■	■	■		1、2					
	広域観光開発政策	国別研修		■	■	■	■	■	■		8					
	中小企業、農業系支援分野に係る課題別研修	課題別研修他		■	■	■	■	■	■		1、2、8					
	地域振興に寄与するエコツーリズム等の持続可能な湿地資源の利用	国別研修	■	■	■	■	■	■	■		8、15					
	第三次タジキスタン-アフガニスタン国境地域生活改善計画	無償	■	■	■	■	■	■	■	9.91	8	UNDP連携				
	中小企業支援、農業、観光分野における海外協力隊派遣	JOCV				■	■	■	■		1、2、8					
	女性支援分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■	■	■	■	■	■	0.12	1、5、8					
重点分野 2 (中目標)	基礎的社会サービスの向上															
開発課題 2-1 (小目標) 水供給の改善	【現状と課題】 タジキスタンの地方部における給水率は44.5% (2000年) から77% (2020年へと向上したものの、安全な水へのアクセスは36% (同) と中央アジア地域において最も低い水準にある。水分野は、タジキスタンの国家開発計画 (2016-2030) においても重点分野として掲げられており、国民の生活と安全の向上のために安全で適切な給水システムを確立することが喫緊の課題となっている。		【開発課題への対応方針】 タジキスタンの地方において、安全な水へのアクセスが制限されている地域を重点的に支援する。水資源の効率的な利用を促進し、タジキスタンにおける水道事業モデルを確立するために、従量制課金制度の導入を通じて給水公社の経営改善を図り、給水サービスが利用者に安全な水が安定的に提供されることを目指す。								支援額 (億円)	SDGs	備考			
	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間												
	給水改善プログラム	給水分野に係る課題別研修	課題別研修他	■	■	■	■	■	■	■					6	
		ハトロン州ジョミ県給水整備計画	無償		■	■	■	■	■	■				20.95	6	
		従量制課金制度導入を通じた給水運営能力強化プロジェクト	技プロ			■	■	■	■	■				4.00	6	
給水分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力		草の根無償	■	■	■	■	■	■	■	0.13	6					

開発課題 2-2 (小目標) 保健システムの強化	【現状と課題】 タジキスタンにおける妊産婦と子どもの死亡率は他の中央アジア諸国に比して依然として高いほか、非感染性疾患(NCDs)は国民の死亡率の7割以上を占める。そのため、タジキスタン政府は、国家保健戦略において、母子保健増進、NCDs対策等を含む統合的な基礎保健サービスのアクセス及び質の向上を掲げてその改善に向けて取り組んでいるが、医療施設の老朽化、医療機材の不足、基礎的インフラの未整備、医療従事者や専門医師等、医療サービス全般において課題を抱えている。	【開発課題への対応方針】 医療施設の建設・改修、機材供与、啓発活動強化、医療従事者の能力向上などを通じて保健サービスの改善を図り、母子健康増進や非感染性対策を支援する。また、無償資金協力や技協協力等の援助手法を有機的に組み合わせつつ他ドナーとの連携を図ることで、プロジェクト間の相乗効果を高めながら、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)達成を目指した包括的な保健システムを強化する。										
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
		シフォバフシ国立医療センター及び共和国心臓血管外科科学センターにおける医療機器整備計画	無償	2023年度以前	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	9.57	3	
		早期胃癌の内視鏡診断と治療	国別研修								3	
		保健医療分野に係る課題別研修	課題別研修他								3	
		幼児期予防接種改善計画	無償							3.07	3	UNICEF連携
		プライマリヘルスケアサービスの質の改善プロジェクト	技プロ							4.24	3	
		脳卒中リハビリテーション	国別研修								3	
		保健医療/社会福祉分野のJICA海外協力隊派遣	JOCV								3	
		社会的に脆弱な子ども家庭の社会的保護アドバイザー	個別専門家								3	
	保健医療分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							0.54	3		
開発課題 2-3 (小目標) その他社会サービス	【現状と課題】 教育分野においては、初等教育はほぼ達成できているものの、特に地方での教室数不足や校舎の老朽化が課題となっているほか、障害やジェンダー、貧困等の複合的な理由により脆弱な立場の子どもの就学対策も遅れている。また、若年層の過激化が社会不安の要因の一つとなっているところ、防災を含む住環境の整備、地方を含む国内全体の雇用創出等に取り組む必要がある。	【開発課題への対応方針】 貧困率が高い地方の住民及び脆弱な立場に置かれている子どもたちを含め、国民の全体的な生活環境を向上させるための協力を行う。										
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
		タジキスタン国立図書館書籍の保存、デジタル化及び利用のための機材整備計画	一般文化	2023年度以前						0.84	4、9	
		教育/青少年育成/スポーツ分野における海外協力隊派遣	JOCV								4	
		教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償							1.23	4	
	インクルーシブ教育推進のための教職過程構築事業	日本NGO							0.47	4		

重点分野3 (中目標)	安定化促進											
開発課題3-1 (小目標)	【現状と課題】 アフガニスタンと長大な国境を接し、中央アジア諸国を含む地域にとって麻薬・テロリズム・過激主義からの防波堤となっているタジキスタンの安定を維持・促進することは、タジキスタンの今後の持続的な発展のみならず、地域及び国際社会全体の安定と発展にとっても極めて重要であるが、国境管理体制は脆弱である。そのため、密輸対策、武装勢力やテロリスト対策、不法移民対策等の観点から、治安対策の向上が求められている。					【開発課題への対応方針】 中央アジア地域諸国の国境管理能力の強化をはじめとした治安対策の向上を図る。特にアフガニスタンとの国境における税関などの機能強化、及び麻薬対策にかかる能力強化を支援する。						
国境管理・治安対策	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度			
	国境管理・治安対策プログラム	アフガニスタンとの国境地域コミュニティのための人間の安全保障アプローチを適用した効果的な国境管理促進計画	無償							5.36	16	UNDP連携
		第二次中央アジアにおける暴力的過激主義防止のためのコミュニティ強化及び域内協力促進計画	無償							5.84	16	UNDP連携 5か国対象
開発課題3-2 (小目標)	【現状と課題】 90年代の内戦時に、タジキスタンにおいて官民の中核を担っていた人材の多くが国外に流出したことから、現在、国づくりを担う人材が不足している。					【開発課題への対応方針】 日本での研修のスキームを戦略的に活用し、親日派・知日派ネットワークの形成を促進しながら、タジキスタン政府の主体的な国造りに向けた取組を支援する。						
行政官人材育成	協力プログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
				2023 年度 以前	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度			
	行政強化プログラム	人材育成奨学計画(R2)	無償							2.60	4	
		人材育成奨学計画(R3)	無償							2.59	4	
		人材育成奨学計画(R4)	無償							2.75	4	
		人材育成奨学計画(R5)	無償							2.76	4	
		SDGsグローバルリーダーコース	個別研修								4	
		国家開発評議会事務局アドバイザー	個別専門家								8	
		政策の評価と策定	個別研修								8	
		中央アジアにおける災害リスク及び気候変動に対する都市強靱性向上計画	無償							7.73	13	UNDP連携 5か国対象

【凡例】 「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「基礎情報調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(＝個別専門家)、「個別機材」(＝個別機材)、「国別研修」(＝国別研修)、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修、長期研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」(＝第三国研修)、「現地国内研修」(＝科学技術)、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型、SATREPS))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(＝途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「ニーズ確認調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」)、「ビジネス化実証事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」)、「実線「――」」(＝実施期間)、「破線「- - -」」(＝実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】 1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf